



Title	本調査の方針
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1948-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77330
Type	manuscript
Note	鈴木喜多野清一著『日本農村社会調査』（国立書院、昭和23年10月）に関連した草稿。200字詰め14枚。
File Information	D011_01.pdf



[Instructions for use](#)

本調査の方針

本書に於いて示すところは立案に基ついて

行方水調査は、日本特定の地方に於ける農村の

社会生活の基礎的構造とかくの如き構造を通

じて管水と社会生活の実態を闡明する

ものである

大きく見れば日本の農村住民の暮らし

社会生活には皆共通の型がある。これは日本

的な農村生活の型がある。これはアフリカ大陸

の農村生活の型と幾分異なり、アフリカ大陸

の農村生活の型とは余程異つて居る。ここに

農村生活の型と云ふのは農村の人々が生活

しつて行く場合に当然の事として採用して居る

と云ふのは、行いながら感じながら型である。それは是等の人の社会生活に

受む以上、侮辱の中制や慣習を相互に拘束し

合つて生活して居る。あゝ。相互に破綻し

合つて居る。如きあり、皆同様に協力を期待を待ち合

つて居る。は二三人の死なれば秩序が崩れ

我々も其の流にあり。と人を約束と期待は人が

集まりつて生活して居ると云ふには必須の條件

行つ改めん

てあゝ。それか、ない。度には、只暴力と奸智が支

配するのみであゝ。然り、今高橋（かくのり）暴力と奸智は

存続して居るが、其文化的終端の程に依り

ん、^の飯階かあゝ。

僅か三十社の山奥の一部、捲くも平和と発展

があり、人は皆何程かの希望を込へ持つて生

活を、つづけ、居る。かくの如き山阿打ん、太い

こそ、^も暑か^も奸智が、偏若人である事は、出来

ない。そこ、極あり、此、秩序、在然かありし、

この、此、の、制、度、慣、習、が、保、存、し、村、人、は、そ、の、在、り、

守りす
互に
子
を
相
互
に
勤
付
し
合
つ
て
居
る
。若
し
こ

の
勤
付
ん
互
す
の
意
を
協
合
に
全
村
の
總
力
を
つ

く
し
て
そ
れ
を
研
究
せ
ん
と
し
て
居
る
。此
の
こ
の
こ
の

。若
し
は
お
互
に
人
同
世
帯
に
あ
る
。人
が
集
ま
つ

て
生
活
す
る
に
必
要
な
あ
る
中
の
方
面
の
位
階
が
一

通
う
清
浄
な
つ
て
居
る
。次
の
世
代
の
子
供
を
世
帯

中
に
一
人
前
に
教
育
し
て
行
く
没
徳
。そ
の
土
地
に

生
活
し
て
知
り
く
に
必
要
な
經
済
生
活
に
関
心
す
。知
識

技
術
、
道
徳
、
字
教
、
其
他
人
同
世
帯
に
存
在
す
。あ

い
ち
よ
う
の
粗
製
品
が
あ
る
。か
く
の
如

一掃の

① 多種多様な社会や階級を統一し、向上させること。

可憐な三十元の山村にもかくの如き平和と安

居たとあり。は、この人々がそれを過して

生活して、身よと、この社会的組織が整備して

身よ、この社会構造と、この社会はかくの如

く、社会的組織中心外、な、ぬ。それ、^①格上の階

級、な、階級を、この身よ、この人か

く、生活下、と、この社会、この社会、この

社会、この社会、この社会、この社会、この社会

社会、この社会、この社会、この社会、この社会

社会、この社会、この社会、この社会、この社会

住宅構造
生活実態

No. _____

本書の調査年限、各段には、全戸の形態に	子により村毎に其住宅構造は異なり。	地方的文化的個性や自然的條件や産業の事情	毎に又村毎に多少の相異は常にあり。	は住宅の史的な経過とともあり、地方	は住宅の史的な経過とともあり、住宅構造に	するところあり。	住宅の史的な個性の在るの相異も存	あり。但し住宅構造の規模や種類には自らの	地方の住宅、然るに田舎町に於ては都市に於て
---------------------	-------------------	----------------------	-------------------	-------------------	----------------------	----------	------------------	----------------------	-----------------------

國立書院

にフ、この簡易な解説が述べたところから、

帯は自分か調査、この片が一般のな型に

の程、縦つ、片が、か、を、知、事か、

この、あ、る、る、。、その、材、の、特、殊、性、と、

に、あ、る、か、を、見、あ、す、事、不、あ、ま、と、あ、る、り、。、か、く

の、如、き、特、殊、性、は、
此、の、精、造、の、全、体的、構、成、組、織

に、あ、る、り、か、。、と、共、に、
全、体的、構、成、に、要する部分、
此、の、如、

に、あ、る、り、。、

私、等、は、後、述、の、調、査、

に、あ、る、り、。、
但、し、の、材、の、特、殊、性、と、あ、る、り、
材、の、出、の、を、知

日みんは、静山簡學にほとんたを叫ぶか
しななく大儀に正しくか、と云ふ事につき
心或は程おの見過しを矯つて居る。即ち旅行
中に通りか、つたある一々の村の泥合の時帳
を二五の字の籠裏にぶつて知りむいと思ふ時
合には、とんなとんを尋ねるよいか。二三
滞杞に来よ場合、一月滞杞に来よ場合、教
年子ん豆つて、調査し得る場合、それ等の色ん
の場合、原に、道不及た可調屯子項を考へ、
事か如來よ。それには大儀に豊村記を先治の構

造一極下あり。此精選の申請の押印的な部

分也浮動の皮厚の左部が水自か一一定して亦

日か一である。

凡そ社会措置の中前者の實際の多いたは

要國特の進作をなし、予よりである。故に

前以高急を執案には団体を取り上げよう

小は、不収。とんを種族の団体とんを異令

心組が金はさ水と斤である。私等の記念多所は

是にか、始め、水、の、多、の、団、体、の

男、性、の、統、一、を、こ、こ、に、存、す、の、在、所、の、記、念、構、造、と

村	の	幾	つ	か	互	倉	大	場	屋	と	あ	る	。	然	し	と	ん	簡	便
と	多	い	か	、	其	地	亦	に	現	在	部	落	と	併	い	な	し	て	存
合	も	多	い	。	又	之	水	を	部	落	と	あ	ん	で	併	せ	と	て	存
大	字	と	併	し	水	区	を	併	し	て	存	す	。	さ	う	で	た	い	場
地	域	内	の	記	存	的	統	一	と	あ	る	。	多	く	場	舎	と	水	は
倉	化	の	基	礎	的	存	在	位	は	、	級	別	を	併	し	て	存	す	の
か	あ	る	。	と	思	ふ	所	、	い	ち	中	村	に	併	せ	て	地	域	的
係	に	帯	ん	一	致	し	て	存	す	。	即	ち	従	ん	述	べ	る	場	舎
は	同	一	で	は	存	す	の	と	あ	る	。	さ	ら	に	実	上	兩	者	は

の地域の呼称が何々ありたりと
 を形して予て地域内の人々の
 記憶に他の地域の統一と異つ
 たる他の地域の統一と異つた
 歴史的地位
 互に二片と同一の記憶の場
 として認めらるる
 力な相互作用の範囲を予て
 予定する。是れは文化の一
 線が依りて存続を
 示す。然るに予ての如き
 人同世界
 の範囲を予て片と別の
 は自然持てたる片と
 自然持てたる片と

→ 自然性内の

新	→	在	2	附	に	更	か	に	為
字	可	察	・	加	自	ん	ん	よ	の
以	三	知	故	的	然	又	才	の	調
か	五	可	々	的	性	自	事	の	査
く	の	可	若	的	の	然	不	の	し
→	の	可	し	的	記	性	如	の	得
如	思	為	甚	的	念	性	果	の	と
可	積	何	大	的	存	性	了	の	因
輕	的	は	簡	的	在	性	。	の	係
輕	措	は	易	的	軸	性		の	ら
的	送	知	一	的	の	性		措	の
因	を	水	自	的	軸	性		送	特
係	知	足	然	的	の	性		的	性
と	は	の	性	的	軸	性		を	と
し	足	の	性	的	の	性		知	し
二	の	の	性	的	因	性		ら	ら
次	と	の	性	的	係	性			
の	。	の	性	的	の	性			

種の集團を如何に
か出来よ。

一 組織が及ぶ以後の行政的地域図作

一 氏神に因りての集團組織

一 入會山に因りての集團組織

一 経済的活動の中心の集團組織

一 旧時の村に於ての組織

一 村仕事の第壹組織

一 幕僚協力組織

一 同族組織